

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400072		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコートちはら台 1階		
所在地	千葉県市原市ちはら台東9-11-4		
自己評価作成日	平成28年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成28年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様のお想いを大切に 一人ひとりとの関わりの中で 自分自身のできる事をやって頂き お客様 職員が楽しく元気に生活ができるよう支援しています。
毎月の行事や外出支援にも力を入れ 普段行くことができない温泉や横浜中華街、イルミネーション見物に出かけ楽しみのある生活を送って頂いています。地域活動にも積極的に参加し地域交流の場を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ご利用者全員が「笑顔で元気」に過ごして頂く事をホームの目標とし、職員も利用者の笑顔を引き出していくために一丸となり取り組んでいる。今年度は、なるべくご自身で出来る事についてはご自身でやって頂けるよう自立支援に力を入れたほか、外出の支援では全員の利用者が参加できるように、外出先を選択して頂き、状態に合わせた対応が図れるように取り組んでいる。地域との交流も、事業所主催の夏祭りに地域の方をお呼びし地域住民と交流を図ることができている。また、職員が中心となり結成している「ちはら台バンド」も継続し、ホーム内行事や地域の懇親会で演奏する等、職員の特技を活かした取り組みも継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての社是、経営理念お踏まえ、職員で考えた理念を基に実践しています。理念は共有部分、事務所に掲示しています。	会社の社是、経営理念、心得の掲示のほか、「笑顔で元気」をホームのスローガンに掲げている。会社の経営理念については毎月の拠点会議の中で唱和することとし、職員の理解が深まるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の主催するイベントなどに積極的に参加する他に、ガーデンコート主催の納涼祭には地域のボランティアや、近隣の方々にも参加して頂いています。	防犯パトロール等の地域行事への参加や地域のお祭りにも利用者と一緒に参加をし交流を深めている。また、事業所主催の納涼祭に地域の方を招き交流する等、地域とは良好な関係が構築できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域福祉ネットワーク行事にお客様と一緒に参加しています。認知症サポーター研修を地域の方々に向けて実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での活動状況や、利用者状況を中心に、質疑応答形式でアドバイスを頂いております。	会議には地域包括支援センター、民生委員、家族の方の参加を受け2ヶ月に一度定期的を実施している。運営状況や行事報告のほか、参加者から地域情報を収集することができ、その情報を活かし地域交流の充実に繋げている。	運営推進会議を定期的で開催し、多くの情報を収集することができているが、今後に向けては、地域住民の方の参加も得られる事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に訪問し、空き情報や現状報告・相談を行い、情報交換を行っています。担当者様には、運営推進会議に参加頂いています。	行政に判断を仰ぐ必要性が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ助言を頂く事ができている。運営上の疑問点なども相談に応じて頂く事ができおり、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修通じ学んでいます。安全面の考慮から、玄関・階段の施錠を行っています。(エレベーターでの上下階を行き来することは可能、玄関を開ける際は職員に声をかけをお願いします。)	事業所内の研修において「身体拘束、虐待について」を実施し、適切な対応方法を職員に周知している。現状事業所内において身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際にあった事例などを用いて提示する他、研修を通じて意識付けを行っています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や連絡ファイルを通じ情報の共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点を残さないよう、途中途中に質問を伺いながら進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意向や要望は、来訪時、面談時(担当者会議)電話連絡時、運営推進会議の際などにご意見を伺えるよう心がけ運営に反映しています。	家族からの意見や要望については面会時や電話で個別に確認している。また会社からお客様アンケートを実施し、運営上の要望等を収集している。利用者からの意見や要望は日常会話から収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月毎の個人面談を実施しています。フロア毎にノートを設け自由記入や拠点会議や申し送り際に意見交換・検討を行っています。	3ヶ月に一度管理者と職員間において個別面談を実施し、職員からの意見や要望を収集している。また毎月の拠点会議のほか各ユニットにノートを設置し日頃から職員が意見を表出できる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がまとめた職員個々の情報を統括し、環境改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修の他、外部研修の紹介を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にある事業所との交流をもち、施設見学の他に情報交換などを行っています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを十分にとり、本人のニーズを引き出せるよう心がけております。職員間での情報共有を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始前に要望や背景の把握に努め、ご利用開始してからも状況の変化などをまめに報告を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM、それまでいた施設、病院、ご家族様から多くの情報をもらい、今までの生活に近づくようなサービスを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が必要なタイミングを見極め、必要に応じた介護、声かけを行っています。お客様と共に炊事、掃除、洗濯等の日常生活を一緒に行う事で信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から連絡をこまめにとり、本人の状況をお互いに提供しあえる関係作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで築いてきた関係を閉ざさないよう、ご家族様との外出、外泊の機会が増えるよう働きかけています。	親戚との交流や家族とお墓参りに出かける等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が交流できるような場を設け、共同作業等を通じ、より良い関係が築けるよう働きかけています。孤立してしまう方へは個別ケアを通し少しずつ距離を縮められるよう努めています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了した後も気軽に連絡を頂けるような声かけをしています。その後の様子伺えるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用される前の状況を可能な限りリサーチし、本人の意向に添えるよう努めています。また生活していくうえで意向は変わるため、本人の言葉を常に傾聴し望む暮らしに近づけるよう心がけております。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様から今までの生活歴を伺い、従来の生活から可能な限りズレが無いよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日ごろの変化に注意を払い職員同士や家族を踏まえた情報交換ができるようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しを行っています。往診時などに主治医や看護師、薬剤師に相談を行った内容などをケアプランに反映し、より良い生活を送っていただけるよう心がけております。	アセスメントにおいて利用者の現状及び課題を抽出し、アセスメントで得た情報を基に担当者会議において利用者、職員から意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを立案している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、目標の達成度を確認している。	今後に向けては、担当者会議に医師や看護師等の他職種の見取り入れ、ケアプランに掲げる目標がより明確になる事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録しています。重要事項は申し送りや、業務日誌、会議などを通じて全職員が把握できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地域行事に参加している。地域のボランティアが行っているスポーツなどへの参加も事業所で取り組んでいます。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、防犯パトロール、ごみステーションの清掃などに参加し、地域住民との繋がりを持てるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、入居前に説明させて頂き、月2回の往診や訪問歯科を受けています。 また、ご家族と連絡を取り合い、必要に応じた医療については通院をしております。	提携医療機関の往診が月2回あるほか、提携外の医療機関の受診については、本人及び家族等の希望を大切に、受診できるように支援しており、必要時に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ協力医療機関の看護師や施設看護師へ連絡を取っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、必要事項は入院先の担当医、看護師へ情報提供を行っています。入院中は状況確認に伺っています。退院の際は、今後の治療や注意事項についてヒヤリングを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としてできる事、できない事を明確に説明をし、ご本人とご家族が納得された上で、主治医・看護師を交えてケアの方向性を決めていきます。	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習を受講し、急変時に慌てることなく対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いでの防災訓練の他、施設内研修として様々な想定で避難訓練を行っています。	避難訓練については、消火や通報、夜間を想定した訓練を消防署と連携し年2回実施している。災害に備え、懐中電灯やカセットコンロを揃えている。また水害の状況においてもハザードマップで確認を取っている。	今後に向けては、災害時に備え備蓄品の確保や災害発生後、家族に対して利用者の安否をどのように伝えていくか連絡方法についてより明確になる事が望まれる。

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握したうえで、敬う気持ちを持って対応をしています。	事業所内において「接遇マナーとプライバシー保護」についての研修を実施し、適切な対応が図れるように取り組んでいる。居室への出入りについても一声かける、ノックをしてからの入室を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい事、行きたい場所、食べたい物をお客様と一緒に考え、自己決定できるような関わり方を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のリズムに合わせ 入浴の時間や食事の時間を変更して対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭そりや着替えなど、声をかけ お手伝いをしています。2か月毎に訪問美容で整髪を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と職員が同じテーブルを囲んで食事をしています。準備から味付け、配膳 洗い物等、一緒に行って頂けるよう声かけをして行っています。	食事の準備や後片付けでは、利用者にもできる限り参加をして頂き職員と一緒に進める事ができるように支援している。食事を楽しむ工夫では、季節に合わせて食事メニューの工夫や外食などを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を提供させて頂いてます。水分量については、ある程度設定された量を摂取して頂くよう声をかけて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には声かけ、介助の必要な方には、スポンジブラシや口腔ウエットティを使い介助を行い清潔を維持しております。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なタイミングのトイレ誘導を心がけております。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と運動不足に留意しつつ、おおよその排泄間隔を把握することに努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	目安となる入浴予定はありますが、当日の体調や希望で変更をしています。	利用者の体調やタイミングを考慮し、週2回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮している。また、温泉施設への外出も取り入れ入浴の楽しみに繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の過ごし方を把握し 本人のペースで休めるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師に立ち会って頂き、服薬管理、薬剤の説明と服薬指導を受けております。職員は、症状の変化や状態を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのの趣味や特技を活かし、職員がアイデアを出し合い、気分転換できるサービスを考えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園に散歩に出かける事が日課となっております。行事や遠足として中華街や温泉、イルミネーション見物と外出に力を入れております。	天気の良い日は周辺の散歩や買い物に出かけている。また外出行事として初詣、花見、運動会、七夕祭り、外食等への外出や車を借りて県内外の観光名所などへも外出している。利用者の希望も確認し、様々な地域に出かけられるように取り組んでいる。	

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物品がある場合は、お預かりしているお小遣いの中から、ご本人の欲しいものを選んで支払ができるよう支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望時に対応をしています。手紙や年賀状が届いたさいは、お返事を出せるよお手伝いさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有フロアには、季節に合わせた装飾を飾り季節が目で見えてわかるよう工夫しています。フロアにはソファを置きゆったりと過ごせるようにしています。	共用の空間は、ご利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったお客様同士で共有のフロアで雑談をしたり、ソファなどでは一人の時間を過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や好みの物をお持ち頂いたり、本人とご家族と相談のうえ、家具の配置を決めています。	居室は、ご利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様のできる事、わかることを職員が把握し、自立した生活が送れるようにベッドの配置やテーブルの位置を検討し安全に過ごせるよう心がけております。		